

「一般社団法人 社会福祉経営全国会議」

管理職養成学校ニュース



2021年12月20日発行 (No.4) 連絡先/〒543-0045 大阪市天王寺区寺田町 2-5-6-902



2021年11/25(木)～26(金)

第3講座が1泊研修として与謝野町で開催されました！

合宿開催にあたっては感染症防止対策について事務局でも検討し、感染防止ガイドラインの作成、合宿中の宿泊は個室対応、こまめな検温、換気対策、食事場面での黙食などの対応について明確にしたうえで研修開催させていただきました。また、様々な事情で現地参加できない受講生も想定して、リアル合宿+オンライン参加のハイブリッド式の合宿として準備しました。当日は受講生17名が現地参加、1名がオンライン参加となりました。

京都府北部の丹後に位置する与謝野町



第3講座の獲得目標は以下の3点でした。

- ① 福祉施設の管理業務である「福祉実践」「教育」「労務」「経営」「運動」について、他法人から学ぶ機会とする。
- ② 社会福祉とは異なる業界の経営・管理業務を学び、管理者としての見識を高める。
- ③ 受講生どうしの連帯感、仲間づくりを促進する場とする。

8月にスタートした養成学校ですが、オンラインでの自主ゼミ・講座参加での交流は活発に行われていましたが、受講生どうしで実際に会うのは今回初めて。対面を喜び合う皆さんの姿が印象的でした。

1日目

～リフレかやの里～



よさのうみ福祉会が指定管理を受け運営している「リフレかやの里」にて、管理者である藤原さゆり氏による講演「リフレかやの里の取り組みとその果たす役割」でした。「リフレかやの里」という民間経営で倒産した事業を与謝野町から指定管理を受けて引き継ぎ、2011年に事業を開始。藤原氏が入職当時から現在までぶれずに持ち続けている、職員としての仕事とその役割「障害者が誇りを持って働けること、障害が重くても少しでも

多くの給料がもらえることへの支援」の熱い想いをリフレかやの里事業の実践報告から聞くことができました。また、農産加工場や農業班の九条ネギ栽培ハウスの見学もさせていただきました。リフレかやの里の入浴・レストラン事業や、農家からの野菜・果物を再加工してジュース・ジャム・ドレッシング作り、農業班は援農作業など、福祉施設が地域ニーズに応える役割を果たしている点も多く学ぶことができました。



～シオノ鋳工株式会社～

次に民間の経営者からの学びということで、シオノ鋳工株式会社に場所を移し、代表取締役の塩野浩士氏より「成長が幸せとなる人づくり」というテーマの講演を聞きました。福祉とは全く異なる業界の経営者の話でしたが、塩野氏が経営者になってからの会社づくりとして、「要」という経営理念と、社員が人として成長することこそ人生の幸福だと「100年後も成幸であり続ける」というビジョンの制定を進めた話はまさに、我々福祉関係の経営者・管理者にも同様に大切な「理念とビジョン」の話でした。また、会社の組織運営の様々な取り組み、毎日の手作り給食に加えて、社員の



誕生日にはリクエストメニュー。地域の三輪車レースに本気で参加、ソフトボールで地域交流、昇給プレゼンの実施、そして近々開設予定の地域の方々も集まれる鋳物体験工房やカフェなどが併設される新工場の紹介、地域がもっと元気になるはず！という視点も兼ね備えたその内容もさることながら、塩野氏が自身の言葉で会社のことを語り、魅力的な人柄とも相まって話に引き込まれていく講演の在り方についても、受講生にとって刺激的な学びとなったのではないのでしょうか。

～かや山の家～

宿泊先の一つでもある「かや山の家」研修室に移動して受講生によるプレゼンテーションです。今回のプレゼンテーションのテーマは「組織運営を語る」です。第2回講座で学んだ社会福祉法人の現状と課題を踏まえつつ、法人の理念や福祉施設が地域で果たす役割を意識し、自分の職場の運営課題を明確にして、リーダーとして解決に向けての道筋を考えること。プレゼンの設定は法人内の管理者の集まりの場を想定して、自分と同じ職位である管理的立場の人たちに向けて、原稿を見ずに5分で語るというものでした。



受講生の皆さんそれぞれに、地域との関わりの視点をしっかり持ちながら法人理念の浸透、職員育成の問題や職場の働き甲斐づくり、行政に働きかける運動づくり、財政収支の適正化など多岐にわたる組織運営の課題解決への道筋を、今回初めての対面でのプレゼンテーションというなかでも堂々と述べられていました。皆さん最後のプレゼンテーションとなる中長期事業計画づくりへの繋がりが期待できるプレゼンテーションとなりました。

1日目の振り返りのグループワークと「山の家」の美味しい夕食を終えた後、各ゼミごとで対面交流。最終のゼミ発表に向けての打ち合わせは進みましたでしょうか。受講生どうしの連帯がより深まり合う与謝野町での夜のひと時となりました。



2日目

～やすらの里・青木理事長講義～



地域共生型福祉施設「やすらの里」での研修でした。「やすらの里」はよさのうみ福祉社会はじめ異業種4法人による高齢者・障害者の複合型福祉施設です。前段で、よさのうみ福祉社会、就労支援施設「ワークセンター花音」の山下美佐子管理者より「やすらの里」の成り立ちと施設紹介をしていただき、第3講座講師のよさのうみ福祉社会青木一博理事長より「よさのうみ福祉社会の福祉経営実践と組織運営」の講義を聞きました。

青木理事長の講義は大きく3つの柱での構成でした。

一つ目、よさのうみ福祉社会の「リフレかやの里」と「やすらの里」2つの福祉経営実

践については、福祉と地域・行政が連携して課題解決に向けてベクトルを一致させて地域再生を目指す与謝野町の「3者よし」の地域性という素晴らしさが報告されました。具体的には基幹産業である織物業（丹後ちりめん）の衰退と少子高齢化が進む与謝野町民の、地域再興への思いが行動へと繋がる地域住民の「自治力」、また、行政側も公的責任や役割を民間に丸投げするのではなく、町として福祉とまちづくりの一体的な推進を掲げ、財政支援を含め行政として行うべき役割と責任を果たす「行政力」。そしてよさのうみ福祉会の「福祉力」が三味一体で成り立つ与謝野町の地域共生社会は、国が掲げる無責任な地域共生の社会とは全く違う地域共生の在り方だということ学びました。



二つ目は法人にとってミッション（基本理念）がいかに大切か。養護学校設置が義務化されていない当時から、すでに与謝野町のある京都北部地域において養護学校づくりの運動が展開され、その際の3つの基本理念が後の全国の養護学校づくりの運動や、その後の共同作業所づくり運動の指針となったこと。そして、よさのうみ福祉会の設立の際にも、学校づくりの基本理念が継承されて法人理念が確立し、その後の事業展開や組織運営づくりに活かされてきたことを学びました。



三つ目は、その理念の実現を目指す組織運営について。理念を時代が求める変化にも対応する形で発展させた「めざすもの」づくり、「めざすもの」を実現するための「ゆめビジョン」づくり、「期待する職員像」から「めざす職員像」づくりへ、じっくり時間もかけて自分たちで考えるプロセスを大事に具体的な形づくりを進めていくよさのうみ福祉会の組織運営づくりについて学びました。

「民主的な地域づくり」と地域との関係性を大切にしたい理念を持ち、それを実現するための組織づくりに丁寧に取り組む社会福祉法人、それとタッグを組む行政と地域の住民力。青木理事長の講義を受けてこの2日間で学んだことが整理され、繋がって理解できたのではないのでしょうか。



そしてその後のゼミごとのグループワークでは、受講生それぞれが、この与謝野町モデルと自身の地域の住民力、社会福祉法人が果たす役割、理念実現のための組織運営について照らし合わせながら論議を深めることができました。青木理事長は講義のなかで、法人の理念をどのように実現するのか、どのように職員のものにしていくのか、それは管理職の力量にもかかっていると指摘されました。



まさに受講生それぞれが、この2日間与謝野町で学んだことを「普遍的な教訓」として自身の地域に持ち帰り、管理職としての力を存分に発揮して地域の住民力を引き出し、理念の浸透のために法人内の組織運営をより良くさせていくことが、国の社会福祉法人改革への対抗軸にもなりえるということを確認することのできた第3回講座でした。受講生の皆様2日間大変お疲れさまでした。またいつかコロナが終息して、気兼ねなく受講生どうしてリアル対面して語り合う日が来ることを切望しています。



最後に、このコロナ禍でのリアル合宿開催にあたり、準備段階から当日まで、宿泊先の提供、移動手段の提供、民間企業の紹介など感染症対策から教務面までご多忙なか、多岐にわたる学校運営へのご協力を賜りましたよさのうみ福祉会の青木理事長はじめ利用者、職員の皆様に、全国会議研修委員・事務局一同厚く御礼申し上げます。

第4講座 12月21日（火）

「財務分析と事業計画」 講師：山本匡人氏（中央会計税理士法人）

プレゼンテーマ 自事業所の財務分析を踏まえた上で、財務計画を発表します。

